



バスラ日誌（6月28日）-155号-

- 1 本日 [] (愛称CS) が任期満了につき帰国の途に着いた。本国に帰ってから(ドイツ駐屯師団であるのでドイツに帰るそうだが。)休暇を取った後、少佐に昇任し第7旅団の幕僚として勤務するとのことである。2人の男の子の父親で、机上には常にその子達の写真が飾ってあった。ハンサムでとても若く見えるのだが、勤続24年のベテランで、16歳で入隊したと聞いていた。陸自で言えば少年工科大学のようなシステムがあるのだろう。居住区コンテナが近く、我々がバスラに来たときから、どこで会っても、元気に親しみを込めて挨拶してくれる方であった。着任当初、周りには外国の軍人ばかりで(当たり前だが。)顔見知りの人がいるわけでもなく、とにかく挨拶から始めようと思って、すれ違う全ての人に挨拶し、そのほとんどの人から無視されていたときに、彼の存在がどれほど勇気を与えてくれたことか。2人のお子さんに鶴を折ってくれと頼まれた時、彼の子供達が怪我などせず、すくすくと幸せに成長することを祈って心を込めて折った。今日、後任者を連れて挨拶をしに来てくれた時、あの鶴には神様がいて、あなたの子供達を守ってくれるようお願いしてあると説明した。とても喜んでくれて、鶴はもう家に届いており、下の子が壊さないように棚の上に飾ってあると教えてくれた。また、長い期間を共に過ごした友人が去っていった。J3では、我々より古いのはあと2人である。今でも、来た時の気持ちのまま、すれ違う全ての人に挨拶しているが、殆どの方から挨拶を返していただき、無視する人は、ほぼいなくなった。
- 2 朝礼時の群長訓辞を読んだ。「任務完遂のため、前向きに胸を張って最後まで全力を尽くす。」という気持ちに迷いはない。炎天下の撤収作業は、困難を極めると思うが、安全に留意されて準備を進めて頂きたい。遠くバスラより、本隊の安全に寄与する情報収集、本隊の撤収計画が少しでもスムーズに進むようにするための調整、及び本隊が、少しでも安全に離脱できるようにするための調整に全力を尽くし、群長の企図に応えたいと思う。『バスラにて陰で支えし復興支援、終わり良ければすべて良し』幹部学校戦略教官室長 [] から頂いた歌である。
- 3 本日快晴。バスラ4名、極めて健康。 [] [] [] []